

Ⅱ 調査結果の概要

1 概況

■発育状態調査

(1) 身長

- ・前年度と比較すると、男子は9歳および16歳を除く各年齢で前年度より高い数値または同等の数値となりました。女子は、12歳を除く各年齢で前年度より高い数値または同等の数値となっています。
- ・全国平均値と比較すると、男子は7歳、11歳、14歳、16歳および17歳で高くなっており、女子は5歳、6歳、8歳および12歳を除く各年齢で高くなっています。

(2) 体重

- ・前年度と比較すると、男子は6歳、13歳および16歳を除く各年齢で前年度より高い数値または同等の数値となっています。女子は、12歳、14歳および15歳を除く各年齢で前年度より高い数値または同等の数値となっています。
- ・全国平均値と比較すると、男子は全ての年齢で全国平均値より軽くなっており、女子は、7歳および16歳を除く各年齢で全国平均値より軽くなっています。

(3) 発育状態の世代間比較

子世代（令和4年度の調査結果）と親世代（30年前の調査結果）を比較してみると、身長の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、子世代が親世代よりも男子は0.9cm、女子は1.4cm少なくなっています。また、体重の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、子世代が親世代よりも男子が1.4kg、女子は、2.7kg少なくなっています。

(4) 肥満傾向児および痩身傾向児の出現率

- ・肥満傾向児の出現率を年齢別にみると、男子は15歳が11.41%、女子は9歳が11.09%と最も高くなっています。
- ・痩身傾向児の出現率を年齢別にみると、男子は15歳が4.64%、女子は12歳の6.39%と最も高くなっています。

■健康状態調査

(1) 裸眼視力1.0未満の者

全国平均値と比較すると、幼稚園、小学校および中学校における「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、全国平均値を下回っています。

(2) むし歯（う歯）

全国平均値と比較すると、中学校および高等学校で全国平均値を下回っていますが、幼稚園、小学校では上回っています。

(3) その他疾病・異常の罹患率

- ・全国平均値と比較すると、眼の疾病・異常、耳疾患、鼻・副鼻腔疾患率はすべての学校種で全国平均値を下回りました。
- ・せき柱・胸郭・四肢の状態の疾病・異常の者の割合は、幼稚園を除くすべての学校種で全国平均値を下回りました。
- ・心臓の疾病・異常の者の割合は、幼稚園を除くすべての学校種で全国平均値を上回りました。
- ・蛋白検出の者の割合は、高等学校を除くすべての学校種で全国平均値を下回りました。